緊急事態宣言と大相撲・五輪

8 日から来月 7 日まで首都圏に「緊急事態宣言」が出された。大相撲初場所は、東京・両国国技館で 10 日に初日を迎える。新規感染者が連日 2000 人を超す東京なので、てっきり中止と思っていたが、9 日に「土俵祭り」が行われた（大阪日日新聞 10 日）。

コロナ関連4部屋全力士休場

大相撲初場所

感染者が発生した 4 部屋で、濃厚接触者の可能性を含む計 65 力士が全休の異常事態。日本相撲協会内からも不安の声が漏れる。緊急事態宣言が発令される状況になっても、協会執行部は政府のイベント開催要件に沿い、観客を入れての実施を推し進めた。協会役員は「無観客しかないと思っていた。万が一、観客から感染者が出たら来場所以降の実施にも影響する」と、ため息をついた。

元横綱審議委員会委員長の守屋秀繁氏は「これだけ世界がコロナと闘っている中で、果たして開催の共感を得られるだろうか」と懐疑的。新年早々に訪れた綱渡りの 15 日間を乗り切れるか。

政府が決めた緊急事態宣言下での感染防止対策で、イベントは「飲食を伴わず、5 千人かつ会場の収容率 50%以下で開催」とある。東京や神奈川など首都圏の感染状況を考えると、こんな対策でいいのかと疑問に思う。今回の緊急事態宣言は場あたり的で、生ぬるいのではないか、続報していきたい。

朝日新聞 8 日朝刊「東京五輪 危ぶむ声も」にも注目したので抜粋して紹介したい。

開幕まで 200 日を切った東京オリンピック（五輪）について、大会組織委員会の内部でも「緊急事態宣言が 3 月までに解除されなければ、大会開催そのものが危ぶまれる」との見方が出ている。

組織委は現在、選手や大会関係者向けの新型コロナ対策のガイドラインを作成中で、1 月中にも各国・地域のオリンピック委員会などとオンライン面談を始める予定だ。組織委の幹部は「日本の感染拡大がどう受け止められるか心配だ」。3 月末には福島を皮切りに聖火リレーが始まる予定で、同時期に政府主導の調整会議で大会時に観客の入場制限を行うかどうかの結論を出す見通しだ。

ある大会関係者は「日々の暮らしに苦しむ人や医療従事者のことを想像すると、大会どころではない」と吐露する。

開幕まで 200 日を切った東京五輪、さらにパラリンピックはどうなるのか。NHK のニュースを見ていると、1 年延期になった五輪選手などの動向がよく伝えられる。選手の気持ちも私なりに理解できるが、コロナ禍の厳しい現実もしっかりと報道してほしい。

（2021 年 1 月 10 日）